



学力向上！ 授業改善のために

学力向上に向けて、教育センターから支援する趣旨で、今年度も特別号を発行します。今、学校では今年度の全国学力実態調査の結果・課題の分析を進められ、今後の教育活動を見直されていることと思います。教育センターからも授業改善に向けて、昨年度に引き続き、発信していきたいと思ひます。

今回は、「特別支援教育の観点から学力向上を考える」というテーマです。

学習のつまづきが大きいと考えられる「特別な支援を要する子どもたち」。これらの子どもたちがわかりやすい授業とは、**発問・教材提示のしかた・教材の工夫**…等を意識した授業です。特別な支援を要する子どもたちにとってわかりやすい授業は、より多くの子どもたちにとっても、わかりやすい授業であり、それはすべての子どもにとっても、学力の向上につながるのではないのでしょうか？今回は、教育センター発達理解研究グループの授業グループでの研究を紹介させていただきます。

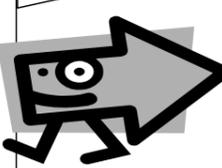
授業のユニバーサルデザインを考える

授業のユニバーサルデザインとは、「誰もが学びやすい授業」です。

「誰もが学びやすい授業」を実現するには、授業中の支援における5つの観点が必要と考えています。

まず、

[Ⅰ]
授業中の支援
チェック表を
紹介します。
(右面へ)



どの子どもも楽しく充実して
過ごすためには・・・

必要となる3本柱

個別の理解と支援

学級集団づくり

授業づくり

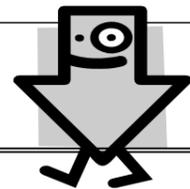


誰もが
学びやすい
授業

授業中の支援5つの観点

- A. 授業ルールがあり、そのルールは、わかりやすく示されている
- B. 授業をするために、教室の学習環境が整えられている
- C. 児童が、意欲を持って学習できる、授業の要素が設定されている
- D. 個に応じた対応がされている
- E. 子ども同士のつながりを考えた活動がある

今回は、3本柱の中の授業づくりについて紹介します。



さらに、

[Ⅱ]

授業中の支援の具体例を紹介します。(裏面へ)

そして、

[Ⅲ]

授業中の支援を授業実践例(小学校2年算数)を通して紹介します。(裏面へ)

[Ⅰ]

「授業中の支援チェック表」を紹介します

先生たち自身で、子どもへの支援を振り返ってみましょう。右下のレーダーチャートに記入してください。新しい発見があるかもしれません



授業中の支援チェック表

A. 授業中のルール

- ①授業前のルール(ベル着、トイレは休み時間になど)を守っている
- ②発表のルール(黙って挙手、ハイは1回など)を守っている
- ③聞かときのルール(合図で注目、目を見て聞く、質問は話が終わってからなど)を守っている
- ④書くときのルール(下敷きを使う、線は定規で引くなど)を守っている
- ⑤忘れ物をしたときのルール(先生に言う、宿題は次の日に持ってくるなど)を守っている

B. 教室の学習環境

- ①「一日のスケジュール」を掲示している
- ②前の黒板周りは、すっきりしている
- ③水筒、ファイルなど、個人の持ち物の置き場所が決まっている
- ④教室はきれい(机はきっちり、ゴミはなし、作品ははがれず、教師机の上にもものがないなど)
- ⑤机やいすの高さが、子どもの体に合っている

C. 意欲

- ①子どもたちのがんばりを認め、ほめている
- ②視覚教材(挿絵を拡大したものなど)を掲示したり、具体物を見せたりしている
- ③ゲームやクイズなど、楽しい要素を授業に取り入れている
- ④子どもたち一人ひとりが自分で課題を選べる機会をつくっている
- ⑤わかりやすい板書を心がけている

D. 個に応じた対応

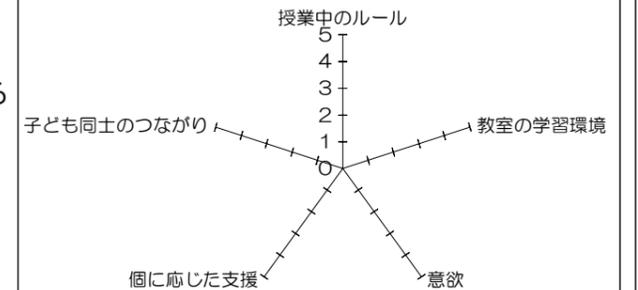
- ①机間指導の時間をとり、指導できる時間をとっている
- ②子どもの実態に応じて、問題の量を加減することがある
- ③課題が早くできた子どもが何をするか、指示を出している
- ④授業でここの理解度をチェックする機会を持っている
- ⑤LD,ADHD,高機能自閉症など、発達障がいについての知識がある。

E. 子ども同士のつながり

- ①友だちがこまっているときに、周りの子が声をかけ、助け合っている
- ②わからないことを友だちに聞くことができる
- ③子どもの中に、間違いや失敗を認め合える関係ができている
- ④授業に話し合い活動を積極的に取り入れている
- ⑤進んで一人ひとりのよさを認め、クラス全体に広めている



授業中の支援を考える





[II] すべての子どもにわかりやすい授業中の支援 なんと282項目！

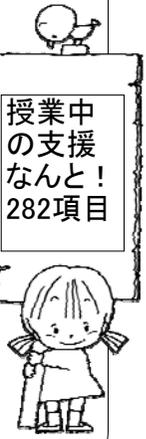
授業中の支援を282にまとめました。その内訳は

- A 授業ルール 35項目
 - B 教室の学習環境 49項目
 - C 意欲 56項目
 - D 個に応じた対応 134項目
 - E 子ども同士のつながり 8項目
- です。以下に一部紹介します

A. 授業ルール (全35項目) 次のようなルールが考えられます

- 1 話すときは、手をあげて、名前を呼ばれたら話す。
- 2 名前を呼ばれたら、返事をする。
- 3 授業中は、友だちの名前も「さん」をつけて呼ぶ。
- 4 文の終わりは「～です」「～ます」の言い方にする。
- 5 話す人に注目して「見る」「聞く」の行為を適切に行えるように約束を決める。
- 6 教師が黒板の前に立ったら、友だちと話すのをやめる。
- 7 教師が黒板の前に立ったら、教師に自分の体を向ける。
- 8 教師が黒板の前に立ったら、教師の顔(の方)を見る。
- 9 教師が黒板の前に立ったら、手足の動きを止める。
- 10 相手の目を見て聞く。
- 11 座り方を示す。例:おへそを机の真ん中に ぐーひとつ、足べったん、せなかを机に貼る。
- 12 書くときは下敷きを使う。
- 13 線を引く時(筆算なども)定規を使って書く。
- 14 次の時間の用意をしてから休み時間にする。
- 15 トイレは休み時間に行く。
- 16 忘れ物があったときは、連絡帳に書いて教師に見せる。
- 17 宿題の提出は、朝一番に班ごとにかごに入れる。(残り18項目あります)

※ 282項目は、校務なびや知恵の泉からデータをダウンロードできます。是非見ていただき、ご活用ください。



[III] 授業中の支援方法を、具体的に実践例を通して紹介します

小学校2年生算数 「長さははかりよう」
 本時の目標 長さをあらわす単位「メートル(m)」を理解する
 教科書の問題「あゆみさんが、りょう手を広げた長さは、30cmのものさしで、ちょうど4つ分でした。あゆみさんが、りょう手を広げた長さは、何cmですか?」→1mさしの使用、単位「m」の理解へ

本時の学習内容(第2時)

- ①あゆみさんたちの測定の課題(30cmさしを4回使用する)について話し合う
- ②mを知り、1m=100cmを確認める
- ③120cmをmとcmで表す
- ④単位換算の問題をする

授業の始めに・・・

支援 1

1時間の授業の流れを提示する

問題に取り組むときに・・・

支援 2

児童に黒板で実際に測らせる

①測り方を確認できる
 ②30cmものさしを何度もずらして測る大変さがわかる

初めての道具を使うときに・・・

支援 3

・1mものさしの拡大版を提示する → 全員で同じところに注目できる

・メモリを10とびで押さえながら教えさせる → 1m=100cmを実感させる

・1mものさしを30cmものさしで測ってみる → 既習事項と関連づけを実感させる

作業するときに・・・

支援 4

・テープを紙に貼って固定する → テープが動かないので測りやすい

・机を3つ合わせる → 1mものさしが机におさまるように

作業するときに・・・

支援 5

・3人組のメンバー構成を考える → 支援の必要な子とフォローできる子、良い関係の子を同じ班にする

・役割を決めて測らせる → どの子も活躍できるように

個々の理解度を把握するときに・・・

①個別指導の時間をとる
 ②授業の最後にプリントで確かめる

② 140cm=()m()cm

たしかめプリント 問題の一例

この1時間を振り返って・・・

より学びやすい授業を目指して・・・

- ①授業に入る前にクールダウンの時間が必要
- ②教師が板書する時間も必要
- ③視覚支援も説明も、過ぎると逆効果
- ④授業の山場をはっきりと

授業の始まりは、いきなり本時の課題を始めるのではなく、フラッシュカードを使った反復学習などで、気持ちを切り替え、学習に向かう心の準備の時間をもつことも必要!

わかりやすい授業のために、黒板への貼り物等を準備することは大切なことですが、それが多すぎると、授業が煩雑になったり、ペースが速くなったりして、子どもが理解しにくくなることもあります。子どもたちと同じ速さで、教師がゆっくり板書することも大切にしたいですね。

SATUKIネットの校務なびのライブラリや知恵の泉には、吹田市内のたくさんの情報がデータとして保存されています。今回紹介した内容に関連した資料として、以下の資料をダウンロードすることができます。

◇授業中の支援 282項目 ◇小学校2年生算数「長さははかりよう」指導案 ◇授業中の支援チェック表
 ◇小学校4年生国語「アップとルーズで伝えよう」指導案 ◇小学校3年生算数「わり算」指導案
 その他、教育センターの研修会で活用した資料や、吹田市内の各学校の指導案、資料などが見ることができます。是非、一度のぞいてみてください。

※「校務なび」も「知恵の泉」も、SATUKIネットポータルサイト画面から入ります。
 (どちらも、同じユーザーIDとパスワードが必要です。先生方みなさんにIDとパスワードが割り振られています。?という方は、教育センター情報教育担当までお問い合わせください。)

※校務なび→ライブラリ→教育センター→特別支援教育
 ※知恵の泉→パスワードで入り、検索システムで資料が検索できます。

・・・是非、ご活用ください!

